

このまま方式の公営施設マネジメントに717.

(1) 計画策定に至った経緯に717.

全国的に於いて、他市より早目に計画策定をしようとして平成26年に策定の公営施設の半分以上が学校であり、多くの学校が築30年以上に経過している。また本市の保有する公営施設が昭和40年から50年に作られたものが多く、建物面積約260万㎡、道路は約4.200km、橋950橋、水道管約3,500km、下水道管約3,200km程度の状況であり、

築30年以内の入事故もあり、早い時期にいうと40%計画策定に拍車をかけた。

そこで公営施設の建物の増やさないで、財源は丈夫な方が、

市債はかりに頼る良いのかという意見もあり、財政再建団体の夕張市に取らぬように慎重な意見もあり、そこで改修、更新の方針で策定しようとした。早い打ちをかけたという事。

(2) 公営施設マネジメントの取り組みに717.

公営施設マネジメントの取り組みは、まず公営施設の老朽化問題があり、平成21年市内の基礎調査をしよう。行政改革推進本部を設置する。平成22年には、公営施設マネジメント会議の設置と公営施設マネジメント方針の策定をしよう。

平成21年22年の事と基礎に平成24年に公営施設マネジメント計画を策定した。マネジメント計画は、11項目3原則とした。①新しい施設は原則としてつくらず、現状の施設を有効活用する。②施設を建て直す場合には、元の施設と比べて1.5倍程度減らす。③今の施設の床面積を10年間で15%程度減らす。29%をベース複合化しようという取り組みをした。

(3) 市民の情勢及び合意形成に717.

市民の具体的な意見として、公営施設が今更なうりだして壊したの直す、というのを続けようとして予算不足で施設の崩壊がある。借金をして建て直すという返せば、財政が破綻。無計画に新しい施設をつくって維持して新しい施設が増加しては、さようなことから、公営施設マネジメントシンポジウムを平成26年1月3日に開催した。その後、山崎市長、山崎市長の110名以上の市民、

出席説明会、シンポジウムの開催がこれによって行政と市民が一緒に考えて、市民の案を行政が取り入れる形がとられた。

(4) 計画の進捗と今後の課題について。
アクションプラン策定から3年経過。
ハコモノ三原則と施設整備。公施設とネットサービスの連携。
長寿化における予算の転用。様々なPPP手法の導入。
複合化に向け市民との合意形成。と事業を進めていくわけだが
その結果。マンションが増え。銀行も増えた。これは介護ローンの取り組み
が増えたからだろう。
若者人口の流入もあり。学校も大規模校となり。放置するわけでは出来なく
字の通り林没を促して新しい課題も出て。整合性かといふところ
も出てくる。

高島平地域ブランドデザインについて

(1) ブランドデザイン策定に至った経緯について

高島平地エリアというのは、昭和40年以前は(特別)都市計画法に基づいて「田んぼ」エリアである広大な水田地域であった。

昭和40年代に入り、経済成長で都市の深刻な住宅不足で、指定をほめて都市基盤整備が進められた。そして、人口増加が進み、

その後、スピードが増し、少子高齢化が進んで来た。そこで

東京で一番住みやすいまちを実現するため、20歳代から40歳までの若者世代に「照準」を合わせ、この世代の集い、残り住みたくはない魅力創造と、高齢者世代を含む多様な世代の歩き、自転車を中心とした生活を築いて暮らすことができる都市モデルを提案するようになった。

(2) アーバン・デザイン・セーフティ-高島平(UDCTak)の設計経緯と特徴について

住人が人との付き合いではなく、時を置きて住みやすいまち、看聞に地域外の人々の人口増加を計る。健康福祉、生活サポートを計り、エネキ-とスマートエネキ-太陽光などのエネキ-を利用していく。高島平地域というものは、4つの駅があり、これらの駅のある高架下を利用して、繁華街をつくり、楽しく歩けるような街づくりが特徴である。

(3) 「民」「学」「公」の連携の取組の工夫と課題について

行政主導で民間主導で、地域には4つの大学があり、大学教授の指導もあっていっている現状。人的支援等のノウハウをそれぞれで共有する。

平成27年はブランドデザインの具現化し、まちづくり事業のイベント等を始めた。今後の課題としては、基本としている歩いて暮らすための歩き街、暮らしてつくるまちの歩き街ということで、昭和50年代に作った公民館などの複合化をどうしていくかの課題

(4) 住居状況と今後の課題について

高島平地を315m²のエリアで関係機関や民間に11313戸を聞いているが、まだまだ足りていないという状況。

民から役所へ上がった声を計画に反映してもらい、案をつくり住民の皆に説明をしてきた。今後ますますの高齢化が課題。

要築等を基本計画にたっているエリアに盛り込んでいく事も課題である。今後は公共用地も有効利用していくのは、今後の課題である。

URの空き部屋を活用しサービス付き高齢者向け住宅について

(1) ウィンターと高島平の特徴について

高島平団地（UR都市機構）の住棟内に存在する一般住宅を
1フロアだけのサービス付き高齢者向け住宅に改修。地域の医療機関
介護事業者等のネットワークと連携し、様々なことも介護が必要に
なっても安心して暮らし続けることができる住宅。

(2) 入居者の介護認定の内訳とサービス内容について

午前9:00～午後6:00までは生活コーディネートが。安否確認、生活相談
緊急時に対応している。
医療、介護はしない紹介する方式をとっている。

(3) 分散型のXリット、Yリットについて

Xリット Yリットは若者世代との交流が主である。
Yリット 介護が必要になり介護度が高くなる時にこの形
に対応していくことが可能。今後の課題について。

(4) 今後の課題について

部屋の改造、介護が必要とせず、1フロアだけの改造、手すりなどの
設置において、URと他の法人の話し合い、契約が必要になってくるという事

所感

今日の視察を終えて

① 私から一番感じたのはどの自治体もその「HCC」サイトもそのご支援施設を
でしつと三位一体改革リーディング後、税収も落ち込み、ご施設を
ごんごん建築していくのも問題であり、改修、更新していくこと、ご施設も10%
～20%減らして複合化を計っていくことがあり是非研究していきたい。

② 高島地域グランドデザインについては、昭和40年代に入って築造された
団地で若い世代から高齢者まで、地域で生き残りたい、自転車、歩い
たいから生活で支えたい。これは知市でも参考にしたい。これに加えて
地域を活性化させるために立ち上げたい。すばらしくいい考えです。また4つの
駅のある鉄道の高架下を利用し、他地域からの高齢者を呼びこいていくこと
も理解でき、今後知市も研究していくべきかと考えています。

③ URの空き部屋利用は評価は出まらぬ。私自身も視察をかねて
先に地域を活性化させることを支援していただく。素晴らしいと感じました。
VTEUも高齢者向けに施設は重要であると痛感いたしました。